

茨城県立こども病院だより

令和2年9月30日 第50号

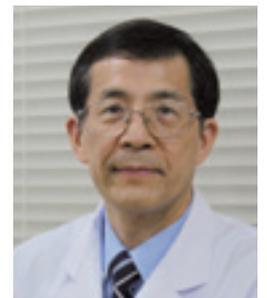


表紙写真：新生児救急車(ラッコ号)

指定管理者 社会福祉法人 医療 済生会支部茨城県済生会

小児の新型コロナウイルス感染症とこども病院の役割

病院長 須磨崎 亮



新型コロナウイルス感染症（COVID-19）はこども達の生活や小児医療にも大きく影響しています。3月2日から全国一斉に臨時休校となり、その後、緊急事態宣言を経て学校は再開されましたが、学習の遅れ・夏休みの短縮などもあり、こどもの日常生活は激変しました。

医療面では幸い、こども達のCOVID-19リスクは比較的低いことが明らかになってきました。COVID-19患者の中で小児の割合は少なく、学校や保育所におけるクラスターはまれなようです。成人と比べて小児は軽症で、死亡者もほとんどいません。しかし診療の場では、こどものいるご家庭では手洗い・マスク着用を励行して、人混みや感染者の多い地域を避けるように指導しています。以下に記すように、こどもの感染は大きな問題をはらんでいるからです。なお2歳未満のこどもや暑い時期の屋外では、マスク使用を避けてもらっています。

小児COVID-19患者の多くは家族内にすでに感染者がいて、濃厚接触者としての検査で診断されています。その場合、「保護者が感染者として隔離が必要になると、こどもの面倒を誰がみるか？」という問題が生じます。祖父母に頼むのはハイリスクの高齢者を危険にさらすことになり、保育園などにも頼めず、直ぐに困ってしまいます。実際、今まで茨城県で発生した小児COVID-19患者さんでもこの問題が起こっています。「隔離」と「保護者から切り離されるこどもの不安への対処」を両立させるために、近隣病院の成人用の新型コロナウイルス専用病棟の1室を空けて頂き、家族で入院して頂くこともありました。この場合、小児患者の診療のために、こども病院から医師や看護師を派遣して、入院先病院と連携をとりながら、安全・安心な体制を整えることができました。この場を借りて、特段のご協力を頂いた関係機関に篤く御礼を申し上げます。

小児例の重症化のリスク因子は1歳以下の乳児と何らかの基礎疾患を有するこども達です。不思議なことに、こどもに多い気管支喘息は重症化のリスクにならないようです。小児COVID-19患者が比較的元気でこれらのリスク因子がない場合、自宅療養が可能なことがあります。原則は宿泊療養ですが、実際にはこどもを連れてホテルの1室での隔離生活は困難が予想されます。一方、自宅療養の場合は医療者が手近におらず、急変時の対応が問題になります。こども病院では保健所と連携して、オンラインで自宅療養を見守る活動を行っています。

こども病院には重篤なハイリスク患者さんが多く入院しており、院内感染を何としても防がなければなりません。外来・入院とも感染症患者さんの動線をなるべく分けるように工夫しています。例えば感染症専門外来を設置して病院入口で患者さんを振り分けるシステムに変更しています。このため、せっかくご紹介頂いた患者さんの待ち時間が少し増えてしまうことがあります。どうかご容赦いただけるようお願いいたします。



新しく入った医師をご紹介します

白石 結香 (小児科専攻医)

本年度より小児科専攻医としてお世話になることになりました白石結香と申します。

東海大学を卒業後、水戸医療センターで初期研修を行いました。出身が茨城県鹿嶋市ということもあり、茨城県の医療に少しでも貢献できるような医師になればと思っております。医師としては3年目、小児科医としてはスタートを切ったばかりということでまだまだ未熟ではございますが、今後先生方にご指導をいただきながら一日も早くお役にたてるよう努力していきます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

富永 雅規 (小児科専攻医)

4月より後期研修医として勤務させて頂くことになりました富永雅規と申します。

茨城県地域枠修学生として東京医科歯科大学を卒業後、水戸済生会総合病院にて初期研修を修了しました。私自身がNICU卒業生であることも影響してか、学生時代から小児科を志望していました。今回、茨城県立こども病院にて後期研修医として研鑽を積ませていただくことになり嬉しく思います。小児科の世界に足を一步踏み入れたばかりですが、県立こども病院の一員として茨城県の小児医療に貢献できるよう日々邁進してまいります。どうぞ宜しくお願い致します。

梶山 輝彦 (小児科専攻医)

4月からお世話になっております。梶山と申します。

いままであった家族という形が、じわりとこわれ、新たな家族の形がつけられて来ている時代です。既存のものももう、もちこたえられなくなってきているんです。日本はやっぱり物質的に、ものすごく恵まれています。しかし、日本でこどもをやってくるのは、とても大変そうです。なぜでしょう？Inner War？もっと世界に出ていろんな価値観にふれてみてください。新たな時代が、胎動してきています。耳をすまして。

佐藤 賢二 (心臓血管外科専攻医)

4月から心臓血管外科に配属となりました。佐藤賢司と申します。

私は現在、千葉県にある亀田総合病院の外科専攻医として勤務しております。かねてより小児心臓外科に興味があり、外科専門医プログラムの一環として茨城県立こども病院へお世話になることとなりました。

半年間という短い期間ではございますが、何卒よろしくお願いいたします。

石井 翔 (小児総合診療科医師)

総合小児科の石井翔と申します。沖縄県立こども医療センターなどでの研修や、離島勤務ふくめた一般小児科医としての診療を経て、東京都立小児総合医療センター・感染症科では感染症医としてのトレーニングを行いました。本年4月よりこども病院に赴任し、現在は一般小児科診療のほか感染症診療の教育・相談、院内の感染管理などを担当させて頂いております。

昨今では、抗菌薬適正使用の取り組みは施設毎のものだけでなく地域全体で行うものというのが標準的になって参りました。地域の先生方とも連携やご相談をさせて頂く機会もあるかと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

本間 利生（小児総合診療科医師）

4月から総合診療科で勤務させて頂くことになりました本間利生（ほんまりう）と申します。医師9年目です。2012年に札幌医科大学を卒業後、千葉県旭中央病院小児科で初期・後期研修を行いました。その後は埼玉小児医療センターの救急集中治療部門で研修しておりました。茨城県立こども病院では集中治療領域を中心に広く総合的に小児診療に関わっていければと思っています。まだ数か月ですが多様な症例を経験させていただき、大変やりがいのある環境と感じております。今後お世話になる機会もあるかと思いますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

弘野 浩司（新生児科医師）

7月よりNICUで勤務をさせて頂いている弘野 浩司と申します。

2011年に弘前大学を卒業後、同小児科に入局し、主に青森県内の関連病院等で勤務をしておりましたが、超音波の専門技術を学びたい気持ちが抑えられず、お世話になった弘前大学を退職してきました（弘前大学との仲は良いです）。私にとって茨城県は、各領域の専門医が多彩でレベルが高く、都心へのアクセスが良好なうえ自然にも恵まれており、大変大きな魅力がある土地だと感じています。茨城県で働けることに日々感謝し、将来的に茨城県と青森県を中心に何かのお役に立てればと思っています。御迷惑を多々おかけすることは必至の状況ではございますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

日向 彩子（新生児科医師）

今年の4月から茨城県立こども病院で勤務しております、新生児科の日向彩子と申します。以前もこども病院で勤務しておりましたが、2年間の青森県立中央病院での勤務を経て今年4月からこども病院に戻ってきました。久しぶりの茨城で慣れない部分もありますが、赤ちゃんの健やかな成長発達の手助けができますよう、そしてご家族の皆様が楽しく過ごせるよう、精一杯頑張っていきたいと思っております。ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、何卒よろしくお願いいたします。

坪井 浩一（小児外科医師）

卒後9年目の坪井浩一と申します。初期・後期研修の5年間を三井記念病院で過ごし、その後に古賀総合病院（宮崎県）で一般外科に2年間従事していました。2019年に順天堂大学の小児外科に入局し、ようやく小児外科医としてのトレーニングを始めたところです。入局2年目でこども病院に研修に出してもらえたことに感謝し、しっかりと知識と技術を身に付け、ひとりでも多くのお子さんをご家族がハッピーに過ごせるよう、努力してまいります。2年間の赴任予定です。どうぞよろしくお願い致します。

白根 和樹（小児外科医師）

2020年4月から小児外科医師として勤務しています白根和樹です。出身は埼玉県で高校、大学は東京で過ごしましたが、縁あって筑波大学の小児外科に入局いたしました。以前は筑波大学附属病院やJAとりで総合医療センターで勤務しておりましたが、このたび茨城県立こども病院で働かせていただくことになりました。学生のころから小児外科医になりたいと考えており、いま手術を終えた子供たちが見違えるように元気に退院していく姿を見るたびにやりがいを感じています。真摯に患者に向きあうことを信条とし、日々の診療に励んでまいりますので、今後ともなにとぞよろしくお願いいたします。

2019年度もたくさんのご寄付をいただきました。
皆様の温かいご理解とご支援に感謝いたします。

当院では、企業・団体や個人の皆様に善意のご寄付をお願いし、子ども用の図書・玩具の購入や病院内学級の整備など病児の療養環境の向上を図ると共に、健康保険外の先端医療の推進を行う活動を積極的に展開しております。

2019年度寄付金一覧

| 寄付者名 | 金額 |
|----------------------------|------------|
| 愛生を救う会 様 | 847,567円 |
| KDDI株式会社 様 | 150,000円 |
| 山口 すず夏 様 | 50,000円 |
| 株式会社ヤマイチ 様 | 1,000,000円 |
| 外 企業 1件、個人 3名 (1,470,000円) | |

2019年度寄付物品一覧

| 寄付者名 | 金額 |
|-------------------------|--------------------|
| 水戸東ロータリークラブ 様 | 本 127冊 |
| ガールスカウト茨城県連盟第6団 様 | ミニこいのぼり 130セット |
| アフラック生命保険株式会社 様 | 本棚 1台 図書 6冊 玩具 23点 |
| ヤクルトスワローズ 様 | キャップ Tシャツ |
| 水戸ヤクルト販売株式会社 様 | |
| シャイン・オン・キッズ 様 | サッカー観戦チケット 14枚 |
| 親の会 様 | ハロウィン用風船 他 |
| 骨髄バンクを支持するいばらきの会 様 | クリスマスプレゼント |
| 日本出版販売株式会社 様 | |
| 日本児童図書出版協会 様 | 図書 112冊 |
| (公) 難病の子どもとその家族へ夢を 様 | カレンダー 30部 |
| 外 企業 3件、個人 8名 (バギー、玩具等) | |



新型コロナウイルス感染症への対応につきまして、様々な方からご寄付をいただきました。
厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症関連 寄付物品一覧

| 寄付者（団体）名 | 寄 贈 品 |
|--------------------------------|--------------------------|
| マニユライフ生命保険株式会社 様 | サージカルマスク 1,000枚 |
| 茨城リネンサプライ株式会社 様 | サージカルマスク 1,000枚 |
| 株式会社ジェイマックスシステム 様 | サージカルマスク 1,000枚 |
| 株式会社イントラスト 様 | サージカルマスク 500枚 |
| (公)難病の子どもとその家族へ夢を 様 | サージカルマスク 500枚 |
| 筑波学園病院 様・愛国学園大学龍ヶ崎高校 様 | 手作りマスク 136枚 |
| 水戸市社会福祉協議会 様 | 手作りマスク 287枚 |
| 株式会社ファーストリテイリング 様 | 防護服 10,000枚・インナー 450枚 |
| コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社 様 | ドリンク 1920本 |
| 花王株式会社 様 | 花王製品詰め合わせセット 100セット |
| #COWエール事務局 様 | 飲むヨーグルト 675個 |
| (特非)シャイン・オン・キッズ 様 | iPad Air 1台・ミニプロジェクター 1台 |
| 水戸市 様 | 花 |
| 株式会社アクセア | パーテーション10枚 |
| 亀印製菓株式会社 | 茶菓 510個 |
| 外 個人 2名（現金 50,000円・サージカルマスク 等） | |



済生会総裁である秋篠宮皇嗣殿下ご一家から 手作りガウンをいただきました。

秋篠宮皇嗣殿下ご一家5方と宮内庁職員が手作りされた医療用ガウンを賜りました。医療現場で防護服が不足し、職員がゴミ袋を加工してしのいでいるとの説明にご憂慮され、手づくりされたとのことでした。



いただいたメッセージカード

ガウンを着て診療を行う看護師

当院では皆様に広く善意のご寄付をお願いしております。
皆様の格別のご理解とご支援をお願いいたします。

窓口

経営企画課
寄付担当

(TEL) 029-254-1151 内線 9213
(E-Mail) ich-kifu@ibaraki-kodomo.com



部門紹介

栄 養 科

近年、病院における栄養士の役割としては、NST（栄養サポートチーム）などの栄養管理が注目されてきていますが、治療のために家族と離れて入院している子供たちや多忙を極める病院職員が、食事時間を心待ちにして笑顔になれるような美味しい給食を提供することも大切な業務のひとつです。そこで、今回の部門紹介では給食の様子をご紹介します。

茨城県立こども病院の栄養科は、昭和60年の開院時、既存棟地下1階に事務室と厨房が作られ2名の栄養士と調理を委託された給食会社による給食管理業務を開始しました。それから10年後の平成7年、増築棟新築に伴い増築等1階に広々とした中庭のある職員食堂を併設した新しい栄養科に引っ越しをしました。引っ越しをしてから今年で25年が経過し、新築当初は主にガスや蒸気の調理機器が主流だった厨房は、少しずつ機器を入れ替え、今やオール電化厨房へと変貌を遂げました。開院当初はたった2名だった栄養士は、外来栄養指導や病棟での栄養管理業務など活動の場を広げながら増員し、現在は管理栄養士3名と栄養士1名の合計4名が給食管理と栄養管理を行っています。給食の調理業務は開院当初から30余年にわたって株式会社レバストに業務委託してきましたが、平成30年に現在の富士産業株式会社に契約を変更しました。委託会社が変わっても、毎日の給食は変わらず、より安心・安全で栄養のある美味しい食事を提供できるよう励んでいます。

入院中の子供たちの献立は病院栄養士が作成しています。今日は土用の丑の日、メニューは昔から滋養があるといわれている「鰻のかば焼き」です。栄養士が作ったうなぎを模った行事食カードを添えました。このカードを見て子供たちが興味をもって給食を食べてくれると良いなと願って配膳しました。

また、今年の職員食堂はCOVID-19対策のためいつもの様子が違います。職員同士和気あいあいと楽しくおしゃべりをしながら食事をすることはできません。4人掛けテーブルは距離が保てるようバラバラに

離し、寄付いただいたアクリルパーテーションを設置しました。また、窓や壁を向いた1人がけの席をいくつも用意しました。手洗い励行、食事中の会話を注意するポスターの掲示もしました。職員からは「今までのようにみんなで楽しく食事をしたい」という声も聞こえてきました。そのような時、富士産業の社員が食堂にイラスト付きのメッセージ



を飾ってくれました。毎日、新しいイラストが飾られるので、職員食のリクエストボックスにはイラストのリクエストも入るようになりました。リクエストのあったイラストは後日職員にプレゼントもされています。このような対応に気持ちが沈んでいる職員も食堂に来るのが楽しみになってくれたようです。

栄養のある食事は健康な身体を作るために重要です。さらに楽しい笑顔をもたらす食事は身体だけでなく心の栄養にもなるのだと感じました。これからも子供たちや職員に安心安全で栄養があることはもちろんのこと、笑顔をもたらす給食の提供に努めていきたいと思っています。



委員会紹介 緩和ケア委員会

こども病院では、2015年に病気と向き合うこどもの苦痛を取り除くことと、こどもを支えるご家族の精神的な支援を充実させることを目的に緩和ケア委員会が立ち上がり、チームとして活動を行っています。緩和ケアチームのメンバーは血液腫瘍科、新生児科、総合診療科、麻酔科それぞれの医師、病棟看護師、チャイルド・ライフ・スペシャリスト、ソーシャルワーカー、緩和ケア認定看護師など多職種で構成されています。対象はがんに限らず、「生命の危機に直面する疾患をもつこどもと家族」としています。小児緩和ケアでは、神経難病、代謝性疾患、心疾患、重症心身障害児など様々な病気の患者さんが対象となるため、今までの経過や今後の見通しも異なりますので、個々の患者さん家族にあった対応が求められます。

緩和ケアチームの活動は以下の通りです。

- 1) 症状緩和に関する相談：患者さんの痛みをはじめとした身体的な苦痛を取り除く方法を検討します。症状の強さや誘因、軽減するための方法を本人や家族とも話し合いながら、それぞれにあった薬物療法・非薬物療法を検討します。また、小さなお子さんや自分で症状を伝えることができないお子さんの痛み評価をするため、独自の評価スケールを作成したりして、病棟スタッフと家族と共有します。
- 2) 緩和ケアカンファレンス：こどもや家族の意思決定支援や、治療困難ケースの対応について、多職種が集まり話し合いを実施しています。話し合いの内容には、倫理的内容が含まれることもあり、誰でもが自由に意見を述べられる環境であることが重要だと考えています。カンファレンス件数は年間約10件を超えおり、貴重な意見交換の場となっています。患者さんご家族も医療スタッフも孤立させないことが重要だと考えます。
- 3) 小児在宅医療に関する取り組み：こどもにとって最善の療養環境は自宅で家族と過ごすことです。しかし、医療が高度で複雑になったことで、自宅に帰ることはより難しくなり、家族の不安も強くなります。在宅が唯一の選択肢ではありませんが、在宅を困難とする要因を解決し、「こどもが望む療養場所」として在宅も提示できる体制を整えるための支援を開始しました。
- 4) 勉強会の開催：以下の講師をお招きして、院内集談会として開催しました。コロナウイルスの影響で今年度の計画は立てられていませんが、今後もチーム内の勉強会だけでなく、外部講師をお招きして知識と技術の向上を目指していこうと考えています
 - ・2015年：「小児緩和ケア」 神奈川県立こども医療センター 三輪高明先生
 - ・2016年：「小児緩和ケアにおける臨床倫理」 横野 恵先生
 - ・2018年：「小児緩和ケアの現状」 大阪市立総合医療センター 多田羅竜平先生
 - ・2019年：「難病の子どもとその家族」 Hope & Wish

まだまだ課題はありますが、これからも病気を抱えながらも、「その子らしく生きる」を支えていけるよう活動していきたいと思います。



おとなと予防接種

茨城県予防接種センター長 宮本 泰行

10月にロタワクチンが定期接種化されると、こどもには一人あたり30 - 34回の定期接種が公費負担で行われることとなります。一方成人は、過去の定期接種の開始時期にもよりますが、接種していないワクチンが結構あります。主なワクチンの定期接種の開始時期を見てみると、1964年ポリオ生ワクチン、1968年百日咳・ジフテリア・破傷風混合ワクチン（三混）、1977年中学生女子への風疹、1978年麻疹個別接種、1994年日本脳炎（北海道は2016年）などであり、それ以前に出生した成人はこれらを接種していない可能性が高いこととなります。最近注目されている成人の風疹や百日咳の流行にはこのような背景があります。また感染者が少ないのであまり注目されませんが、日本脳炎や破傷風も感染者は高齢者に多い傾向があります。

成人の予防接種は、ほとんどが任意接種であり、少なくない費用負担が発生します。また接種してもワクチンによって予防できたのか、たまたま感染しなかったのか有効性がはっきりわかりません。掛け捨ての保険よりもコストベネフィットがわかりにくいのも接種を控える理由の一つだと思います。

ただワクチン接種には2つの大きな目的があります。日本脳炎や破傷風のように自分を感染から守るため、風疹や百日咳のように自分だけでなく家族や弱者も感染から守るためです。以前このコラムでも紹介しましたが、おたふくかぜによる成人の難聴や高齢者の带状疱疹も増えています。自分の身は自分で守るという観点から是非ともいろいろなワクチンの接種を考えて欲しいと思います。私の薦める成人のワクチンは、年齢にもよりますが麻疹・風疹ワクチン、百日咳・破傷風を含んだ三種混合、日本脳炎、带状疱疹（水痘）ワクチン、65歳を過ぎたら定期的肺炎球菌ワクチン、そして毎年のインフルエンザワクチンです。

最近では旅行などで海外へ渡航する機会も増えており、渡航先に合わせた予防接種を済ませてからの出国が安全です。海外では日本国内では滅多に感染することのない腸チフス、A型肝炎、狂犬病、日本脳炎などに感染する機会が増えますので、ワクチン接種を済ませてから出かけてはどうでしょうか？

今回の新型コロナウイルスの感染予防にBCGが注目されています。BCGは自然免疫を活性化する成分を含んでいるため、これが感染・重症化リスクを下げる一因かもしれないという意見があります。また通常接種するワクチンにも多くの場合、免疫増強物質が入っていて、これが自然免疫を活性化します。なるべく多くのワクチン接種を心掛けることで自然免疫の活性化が期待できます。

というわけで、おとなももっといろいろなワクチンを接種しましょう！



企画
編集

茨城県立こども病院広報委員会

〒311-4145 水戸市双葉台 3-3-1
TEL 029-254-1151 FAX 029-254-2382
URL <http://www.ibaraki-kodomo.com/>

発行
責任者

茨城県立こども病院

病院長 須磨崎 亮

2020/5/20 公開に際して、
一部修正を行っています。